

うみ・ひと・ くらし通信

Vol. 1
2014 September

● 起業する漁村女性
各地で、動き始めた女性たち

● 漁村女性起業家に訊きました
豊後水道が育てた魚でつくる、ごまだし
産地はこだわるね。なんせ鶴見が大好きやけん。
うまい佐賀海苔の高級ブランド化を図る
じぶんたちがワクワクするような商品をつくる。

● 街（消費地）から
おいしさのお福分け
都内アンテナショップでごまだしをさがす。

発行 一般財団法人東京水産振興会
東京都中央区豊海町5番1号 〒104-0055
豊海センタービル7階
TEL. 03-3533-8111 / FAX. 03-3533-8116
www.suisan-shinkou.or.jp/
mail: tkyfish@blue.ocn.ne.jp

うみ・ひと・くらしフォーラム
関 いずみ 海とくらし研究所/東海大学
海洋学部
三木奈都子 独立行政法人水産大学校
副島 久実 独立行政法人水産大学校
blogs.yahoo.co.jp/umihitokurashi
mail: umihitokurashi@yahoo.co.jp

制作 編集室NANA-NA
mail: otakenana.na@jcom.home.ne.jp

Copyright © 2014 Tokyo Fisheries Promotion
Foundation & Umi, Hito, Kurashi Forum

起業する漁村女性
02 各地で、動き始めた女性たち

漁村女性起業家に訊きました

- 04 豊後水道が育てた魚でつくる、ごまだし
漁村女性グループめばる・桑原政子さん
産地はこだわるね。なんせ鶴見が大好きやけん。
- 06 うまい佐賀海苔の高級ブランド化を図る
佐賀市漁村女性の会・古川由紀子さん
じぶんたちがワクワクするような商品をつくる。

街(消費地)から
08 おいしさのお福分け
都内アンテナショップでごまだしをさがす。

編集後記

協力感謝：佐賀市漁村女性の会、漁村女性グループめばる
写真提供：講談社エディトリアル、丸昌水産(佐伯市)、海苔産業情報セン
ター(福岡県筑前町)、佐賀新聞社、木村桜士堂(京都市)

○表紙写真は分県佐伯市鶴見水産基地(2014.7)

起業する漁村女性 各地で、動き始めた女性たち

うみ・ひと・くらしフォーラム 関いずみ

JF全漁連では、漁協女性部の活動について調査を行っている。二〇〇六年に初めて「経済活動」について調査が行われ、八五二の漁協女性部のうち、四二・一%が何らかの経済活動を行っているという回答を得た。しかし、経済活動は、漁協女性部という枠を離れて実施されているケースも多い。つまり、漁村女性の起業活動の実態については、実はよくわかっていない。そこで、東京水産振興会では、二〇一〇年に全国四〇都道府県の水産関係主務課を対象とするアンケートを実施し、海(滋賀県については琵琶湖)に面する六七二の市町村について、漁村女性



あまり知られていない起業活動

人 口減少、高齢化、漁獲量の低下、魚価安……。言いつらきりがないほど、現在の漁村の状況は厳しい。一方で、これまでは猫マタギなどといって捨てていた魚を丁寧に集めて加工したり、地元の水産物を地元で味わってもらおうと食堂を始めたり、地域資源を活かした体験メニューを企画して漁村ツーリズムという新たな産業おこしをしたり、地域の起死回生を図る様々な活動が、あちらこちらで動き始めている。

これらの活動の立役者は、漁村の女性たちである。

女性たちの活動内容は、加工品の製造・販売、鮮魚や活魚の販売、食堂運営、体験プログラムなど多岐にわたる。(図2)

中でも加工品の製造は多くの女性たちが手掛けている。女性たちの加工品は、日常生活にとけこんだ普段着の商品が中心となっている。活動の中から、近年では姿を消しかけていた伝統的な食が復活することもある。女性たちが利用する素材の多くは、これまでもあったにしても、利用価値が低かったものであり、市場では値がつか



バラエティ豊かな活動

による起業活動の有無や活動内容について調査した。その結果、漁村女性による起業活動の事例が三六四件挙げられた。しかし、アンケートの回答者が把握していない活動も多く、実際にはもっと多くの女性たちが動き始めていると思われる。

アンケートでは、活動の主体は漁協女性部が最も多く、有志のグループや個人の活動は、全体の三割に満たない結果となっている。漁協女性部のような既存の組織ではない新たなグループや個人の活動は、比較すれば少ないということにもなるが、これらの新たな活動については、まだそう認識されていないという視点でみなければならぬ。(図1)



「うみ・ひと・暮らしフォーラム」シンポジウムの様子

図2 女性グループの活動内容

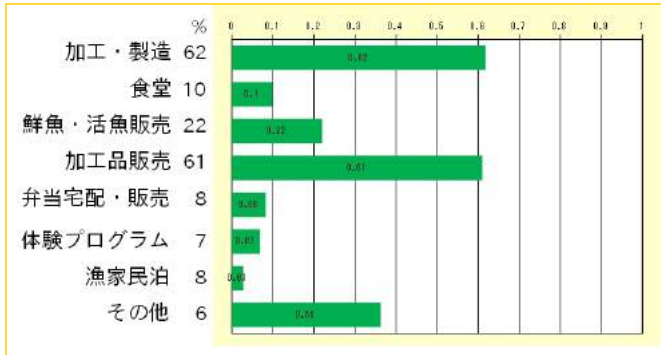


図1 女性グループの活動主体



東京水産振興会／うみ・ひと・暮らしフォーラム／(株)漁村計画 調査

なかつたものである。資源を無駄なく活用して、少しでも水産物の価格を上げたいという想いが、実際の活動となって動き出しているのである。

また、まき網や底引き網などで一度に大量に獲れる魚の中には、サイズや量がそろわない、処理に手間がかかる、名前が知られていないために値段がつかないといった理由から、流通に乗らずに捨てられている魚も、実はたくさんある。せっかくの貴重な海の資源であり、夫や息子が命がけで獲ってきたこれらの水産物を、一匹たりとも無駄にしては「もったいない」。女性たちの起業活動の背景

起業活動の第一の目的は、当然儲けを出すことにある。その時々の水揚げによって左右される漁家の家計を少しでも安定させるため、女性たちが経済的な自立をはかるためといった理由から、漁村でも自家の漁業作業以外の職を求める女性たちは多い。しかし、近くに働く場がない、漁業作業と両立するとなると時間的な制約が大きい、年配の女性も多く一般的な仕事では求人が少ない、などの課題もある。それならば、自分たちで働く場を作ってしまう、という積極的な動機づけが起業活動の背景にある。



には、水産物に対するそんな熱い想いもある。

「うみ・ひと・暮らしフォーラム」は漁業漁村をテーマにする三人の女性研究者（水産大学の三木奈都子と副島久実、東海大学の関）が二〇〇三年に立ち上げた、「漁村女性の応援団」だ。二〇〇五年からは年に一回、漁村女性の起業活動をテーマにシンポジウムを開催している。二〇〇八年からは東京水産振興会とともに、シンポジウムの他に、各地区の具体的な課題について話し合うミニ・シンポジウムも実施している。

シンポジウムの参加者は、起業して一〇年を超えるというベテラングループから、これから何か始めたいというグループまで様々。

シンポジウムでは、具体的な商品づくりや販路、商品PRの方法、値段設定、といった具体的な課題から、なにかやりたい、という気持ちやどうしたら形にすることが



きびなごのおから寿司 (高知県宿毛市)

できるか、といったはじめの一步を踏み出すための相談まで、様々な意見が飛び交う。漁業や水産物への共通する想いを持つ女性たちの集いは、ゆるやかなネットワークを編み出し始めている。

地域に、元気を与える女性たち

漁村女性の起業活動は、年間一〇〇万円ほどから数千万円の売上げのものまで幅があるが、概してその規模は小さい。けれども、その小さな活動が地元の漁業を支え、活動するひとりひとりの生活に力を与え、地元の水産物や食に光を当てている。地域に元気がなく、ここには何もないからどうしようもないという人がいるが、何も無い地域などどこにもない。要は、それぞれの地域が持っている宝物に気づき、それを活かしていけるかどうか、ということ。女性たちの活動は、そういう宝物を一つずつ拾い上げ、丁寧に磨いていく作業のようだ。

そして活動のもうひとつの原動力として、女性たちが、楽しみながら取り組んでいる姿勢がある。みんなが稼いでハワイに行こう、というような柔軟な気持ちは、周囲の人たちにもなんだか、元気を与える。地域を再生するのは、肩の力が抜けた、けれど熱い想いが芯に流れているこんな活動ではないか。



ごまだしサンド。じゃがいも、干物をはさんで



郷土料理百選、佐伯のごまだしうどん



桑原政子『海の恵み 佐伯ごまだしレシピ』講談社エディトリアル 2014年9月刊

でつくる、ごまだし (佐伯市鶴見) 桑原政子さん

産地はこだわるね。なんせ鶴見が大好きやけん、
なんでんかんでん鶴見鶴見って入れるけん。

【最】

初に活魚の販売で補助金をもらったもんだから、売り上げ目標があった、なんとかせんとどうてい無理だと思っ、それでこう舵を切った。

朝市がなくなつたし、活魚槽に入れるような魚が獲れなくなつたから。なにかしなくちやなにかしなくちやと思っ、じぶんたちにながでできるかって考えたらもう、ごまだししかなかつた」

佐伯市鶴見。漁村女性グループめばるの桑原政子さんに聞いた。事業は、豊後水道で獲れた魚を使った「ごまだし」と水産加工品の製造・販売。

ごまだしは、新鮮なエソやアジなど焼いた魚の身をすり、ごまを加えて醤油やみりんで味付けした調味料。うどんにのせて熱湯を注いだごまだしうどんは、農林水産省の郷土料理百選にも選ばれた。「よその魚を入れることはまずないかなあ。産地はこだわるね。なんせ鶴見が大好きやけん、なんでんかんでん鶴見鶴見って入れるけん」

ごまだしを、おいしいとわかつてたし、あんな便利なものはないと思っ、みんな家で作っ、瓶詰め商品は桑原さんたちが先駆けて、コンクール受賞は数え切

れない。地域主催のものも、全国規模のものも。



ひととひとのつながりでここまでできた

「なんでわたしがそんなにコンクールとかに応募したりするかって言うたら、賞味期限三か月つてわたし言うけど、たとえばテレビに出演するとかしても、三か月くらいまではわあつて売れたりするんやけど、そのブームを過ぎると忘れ去られていく。だから、ときどきほんつと、コンクールに出さない」と。

思うんだけど、この、勝つたときの、うまくいったときの喜びつてのはほんとにうれしくつてね。舞い上がつて、ほんに刺激になるんやね、そしたらまた行きたくなるとかも最高によかつた。勝つ喜びや」

去年の十一月、NHK「きょうの料理」クッキングコンテストのグランプリ獲得。そして、うれしいことがもうひとつ。十年来の念願だったごまだし料理のレシピ本制作が進み、この九月に刊行される。ひととひとのつながりでここまでこぎつた。どちらも大分市内で料理教室を開いている娘さんの協力が大きい。

とはいえ、もうやめよう、もういいかなと思つたことも一度や二度は。「あつ、また泣き出したらいけん(笑)」補助金をもらい、それに見合うような売上げが出ないとき、かなりきつく嫌味を、面と向かつて、そうとう言われた。

「補助金もらつた、そりやありがたかつたけれども、これほど言われることじやるかと思つて。全額突きつけてようかと思つたんですけどね。そのときにもういいかなあ、ここまで言われてもいいかなあつて。いま考えたらなあ、たいしたことない。わたしが悪いんやし、そういうことを言つてくるひともいていい。まだいまだに女の涙つてきく。あと四、五年したらもう一回使つてやるわあ、涙を(笑)」



六十年生きてなかにいまがいちばん

「やつていてよかつた。ほんとうによかつた。わたし個人史のなかで、六十年生きてなかでいまが



漁村女性グループめばる 右から4人目が桑原さん



一般的なエソのほか、アジ・タイの「ごまだし」もある

豊後水道が育てた魚 漁村女性グループめばる（大分）

いちばんいいかなあ。わたしな、性格としてはあきつぽいんや。加工場作ったときに、安もんないって思ったから安もん買ったんよ。ね。こんなことならもつといいもんを買ったときやよかつた、こんなん続くんやたらって」

農業の女性起業家は豊かな人が多かった。そういうひとたちを追いつき追い越せでやってきた。農業女性がいたから、そういうグループの経験と失敗がたくさんあったから、作るうというきつけになった。だから、いい時期に立ち上がった。

「普及員はじめ、たくさんの方に助けられてきたなあ。それはわたしの輝いた十年というか、そこにあるかも知れない。わたしいつも五年先五年先と思うてるんよ。この先五年間、本を出して、東京の方へ、ごまだしの普及と販売をして売上げにつなげていく」



おばちゃんたちが
元気で働いている

「ある取引先でね、とても厳しい支配人から、あ、めばるさんやたら、と言われるのが、ちょっと自慢。地元にこだわっているものということがわかってもらっているから、わたしたちは入れてもらった。でも、いちばんの自慢は、こんなバスもこないところに、六人のおばちゃんたちが、元気で喋りながら、働いている。これっていい

合同会社 漁村女性グループめばる 代表・桑原 政子
〒 876-1203 大分県佐伯市鶴見沖松浦 1395-4
TEL:0972-33-0274 mail: matyako@saiki.tv
<https://ja-jp.facebook.com/gomadashi>
ウェブ検索「ごまだし 漁村女性グループめばる 佐伯」
事業内容：豊後水道の魚を使った「ごまだし」と水産加工品の製造・販売
設立年月：2004年2月 構成員：6名
主販売先：さえきりーふ（佐伯市特産品ネットショップ）、トキハデパート他多数
主な商品：ごまだし（エソ・アジ各780円、タイ1,080円税込み）2個／3個セットあり。※価格はさいきりーふ調べ/2014.8）

いと思わん？ 父ちゃんの悪口ばかり言いながら。みんな、楽しく遊ぼって」

「ご主人はまき網漁家、水産会社の経営者。めばるの仕入れの手伝いもしている。」

「お父さん、めばるの犠牲者ってわたし言うんやけど、それでも感謝してる。口には言わんけどな。」

わたしがいつ先に死ぬかわからんや。脅かしながらそんなときはお父さん、あんた、じぶんでもなんでもせないかんから、家の事、できるようにしとかんといかんって。ここ十年でお父さんも変わったわなあ。おれはもうできるけん、いつ死んでもいいぞって（笑）」

遊ぶことも群れることも下手な男たちが、仲間に入れてくれ、と言ってくる日も近い。



佐伯でゼンゴと呼ばれているコアジ。甘味が豊富。ごまだしの材料にもなる

級ブランド化を図る （佐賀市）古川由紀子さん



アサクサノリとジャージー牛乳を組み合わせたアイス

作っていて、じぶんたちがワクワクするような商品じゃないと、ひとつにも売れない。

苦

「苦 労も責任問題も、それはありましたよ。大変と言えたいへんでしょ。普通誰でもやっている方だ。長く続けていらっしゃる方は普通誰でもやっている方だ。楽しんでの比重が増してくと、それが故に続けているというかですね、やっていて楽しさがあれば、小さなことは聞かなくてきまず」

佐賀市漁村女性の会。古川由紀子さんに聞いた。事業は、有明海でとれる佐賀海苔を原料とする加工品の製造・小売。

「じぶんたちが働くことですね、たとえば地域のおなじ世代のひとたちが、『楽しそうね、なんかいいよにやりたい』と思ってくれるような仕事でないと、なかなか訴えるものがない。商品もそうなんです。作っていて、じぶんたちがワクワクするような商品じゃないと、ひとつにも売れない」

漁協女性部の全員参加型の事業としてスタートしたのは平成十二年。独立採算の形をとった。商品化が十三年。しかし、五十二人が翌年十七名ほどに。

「みんな、そんなかんたんに儲けられるって考えるところが、ほかじゃなからかって。いまさら素人がやって、かんたんに儲けられるんだったら、とつづくに昔、だれか

「がやってくるさ」

赤字にならないためにはどうするか。組織のあり方も資金捻出も考えなければならぬ。そこで漁協役員との確執にもなる。

「そのとき言ったとですよ。組合長さん、わたしね、もう漁協はいっさいあてにしませんって」

組織を出ないとじぶんがめざすことはできないなあと思いつつも、平成十六年、事業の再スタート。メンバーにあたまをさげて頼まれた。でもやっぱりだめだった。



わたしが始めないと
もう先には進まない

「この事業をやめてしまおうか、わたしが漁協をやめて始めるか、そのふたつにひとつしかない。で、いままでやってきて、じぶんの思うようなこともしないうちに、もうだめだからやりません、て言うたときに、将来的にどうなんかなあ、と思ったんですよ。あのときなんで頑張らなかつたんなら納得はい一所懸命頑張ったんなら納得はいくけれど、道半ば、スタートの時点にしか行ってないのに。わたしがやめて始めないとこの事業はもう先には進まない。わたし、漁協をやめるって言うたんですよ」

だが順調には進まない。退職願いは組合長預かりとなり、また一

年が過ぎた。いよいよ漁協をやめたのは十八年。翌年、一週間で三千個の注文。

「最初は、朝五時に入って、帰るのは午前一時、二時。二時過ぎですよ。いちおうわたしも主婦だから、主人が、なんでそこまでせんといかんか、って怒られましたけどね。わたしの人生だから、わたしがやりたいようにやらせてくれて。家にはぜったい迷惑かけないからって。家事をしながら、それが一週間続いたときには身体がほんとにもう、このまま続いたらどうなるかなって」

ここで作業工程の見直しをし、安定生産、統一化、時間短縮をすることができた。コンクールでの受賞も多い。

「笑って話してるけどね、きつかったです。なにがいちばんきつかったんですかって聞かれたら、家族の反対がいちばんきつかった。他人はいいですよ、いろいろな言われても聞き流してれば。でも家



佐賀市漁村女性の会。右から二人目が古川さん



佐賀市沖の有明海 養殖
海苔の冷凍網の張り込み



海苔と伊万里産南高梅
とのコラボレーション

うまい佐賀海苔の高 佐賀市漁村女性の会（佐賀）

族は、毎日顔合わせなくちやいけ
ないし、やっぱりいちばんきつか
った。結果を出さなくちやいけな
いって、それもあつたですよ」
大手食品会社に勤めるご主人に
アドヴァイスは受けていた。だん
だんとそうなった。工程見直しの
ときには、初めて、工場に入って
もらった。まえのように文句は言
わないようになった。これは大き
い。二十年に法人化した。



自分の生き方がこの
事業としてできてる

「そうですねえ。やっぱりじぶん
のためかな。結婚したときにはき
びしい姑もいましたし、子供三人
いたからもうほんとに子育てに集
中して。じぶんの人生っていうの
はやっぱりなくて、おしころして
きたのがあつたですよ。それで
姑も送り、子供も成人し、さあこ
れからっていうときに、じぶんの
生き方っていうかな、それが、い
まこの事業としてできてる部分
がよかつたって、いうことかなあ。
いま言えるのは」

さまざまな人と知り合つた。古
川さん、どんなことがあつてもと
にかく負けちゃだめですよとい
つた。応援の声を、よく聞くようにな
つた。事業のペースにはいっしょ
に働く仲間たちがいる。
「ほんとうにもう、仲間たちの家
族の方がはげましてくれるん
ですよ。だから泣き言を言えないん

合同会社 佐賀市漁村女性の会 代表・古川 由紀子
〒840-0037 佐賀県佐賀市東与賀町大字田中 1149-3
TEL:0952-20-0760 mail: y-furukawa@kca.biglobe.ne.jp
http://saganori.com/ ウェブ検索「うまかのり梅 佐賀市漁村女性の会 佐賀海苔」
事業内容：佐賀海苔を原料とする加工品の製造・小売
設立年月：2001年7月漁協女性部で事業スタート、08年
10月法人化 構成員：4名+臨時4~5名
主販売先：伊勢丹、コープこうべ、佐賀玉屋ふるさと館、
経済連他多数
主な商品：うまかのり梅 420円、佐賀海苔の佃煮 630円
焼のりアイス 315円。セット商品/詰め合わせ
あり。※価格はホームページ等/2014.8)



いま、浜の元気は
女性が担っている

す。いまも大切にとつてあるん
ですよ、仲間の孫ちゃんからのほげま
しの手紙、まだ小学生ですよ」

「日本でいちばんすごい旅館でお
いしいお酒を飲んで、あるとき頑
張つたねえって。理事がこう言
つたとか。その理事がいたおかげで
頑張る材料になつた、というのは
あるんですけどね（笑）。思い出
話をするのが最終的な目的。温泉
に浸かりながらね。それだけで
よ、べつにたいして、そんな欲は
ないです。いま、浜の元気は女性
が担っているんじゃないですか」
浜、だけではない。街でも地方でも
どこでも、日本の元気を担っている
のは女性たちだ。



秋から冬にかけて有明海に
海苔ひび（海苔網支柱）と
海苔網の展開がうつくしい

● 街（消費地）から

おいしさの お福分け

都内アンテナショップでご
まだしをさがす。



「ごまだし」ってなに？ 胡麻の
のだし？ まずは、Webを検
索。で、大分県佐伯の、新鮮
な魚を使った調味料であることも、通
信販売ルートがあることもわかった。
じゃ、東京ではどこで買える？ これ
がなかなかむずかしい。広く知られて
いるわけではないし、大手メーカーの
大量生産品でもない。

あ、もしかして、あそこなら置いて
あるかも？ そう、自治体のアンテナ
ショップである。

自治体アンテナショップとは地方自
治体が特産品などを紹介、販売するた
め都市に構える店舗のこと。東京都内
では、2013年10月現在54店舗。都道
府県38店、市町村16店ある（地域活
性化センター調べ*）。銀座・有楽町
エリアがもっとも多く20店、そこに東
京・日本橋10店、新橋・虎の門4店を
加えるとかなりの店舗がこの都心ライ
ンに集中する。形態はさまざま。物品

販売だけでなく、レストラン（地元食
材の郷土料理！）があったり、観光案
内のほか各種イベントを行っているこ
ろも。スタッフ数30人以上が9店。
年間売上高1億円以上が25店、5億円
以上を売り上げる店も5店ほどある。

取り扱いは菓子類、農水産加工
品が多い。生鮮品もある。地元の酒や
調味料、工芸品などもある。

レッツエンジョイ東京が首都圏で行
った調査（2014年4月）*では、いち
ばん人気は北海道とさんぽプラザ。常
時1,000種類以上の豊富な品揃えに加
え、年に数回、東京初出品100品ほど
が登場するルーキーズステージなど運
営の工夫が支持されているようである。
毎日寄っても楽しい。年間来客数は200
万人以上という。

同調査で、買ってよかったお気に入り
商品は、ジンギスカン味のキャラメル
（北海道）、ウツボのたたき（高知
県）、努努鶏（福岡県）、コンビーフ
ハッシュ（沖縄県）、あくまき（宮崎
県）、南部せんべいの耳（岩手県）、
はっさく大福（広島県）、こんぶ麺（北
海道）等々。地元でしか買えないもの
がほとんど。あったらうれしいサービ
ス&商品は、ショップに置いていない
商品のお取り寄せ、地元の知人ぞ知
る人気商品の情報、商品を使った定番
レシピやアレンジレシピの紹介など。

ほんとういえば、土地のものはその
風土で食べ、飲みたい。本誌のお話を
聞きに訪れたとき、古川さんとこの佐
賀海苔も、桑原さんとこのごまだしう
どんもほんとうにうまかった。だから、
旅行時、おいしさのお福分け（お福分
け）であるお土産を買うことにもなる
のだ。このうまさのお福分けがアンテ
ナショップの機能のひとつではないか
と思う。地方と都市とが、ひとつもの
とが出会う交流拠点ですね。

さて、ごまだし。大分県のフラッグ
ショップ「座来（ざらい）大分」は、銀
座にいながらにして大分に思いをはせ
るをコンセプトにしたレストランで、
接待とかによさそう。いわゆる物産店
とはちがう。店内に特産品も置いてあ
り、そこに、漁村女性グループめばる
のごまだしがありました！ アジ、エ
ソ、タイの三種。通販で買えるにして
も、そう、実際に手に取って、重みを
たしかめ、一個でも気軽に買える店頭
購入のよさは、この時代になってもや
はり、すてがたい。



- * 一般財団法人地域活性化センター「自治体アンテナショップ情報」 中央区日本橋2-3-4日本橋プラザビル13階 tel.03-5202-6131 http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/l_all/antena/antenshop_0902.html
- * レッツ・エンジョイ東京「アンテナショップ特集」（東京地下鉄(有)と(株)ぐるなび共同運営) <http://antenshop.enjoytokyo.jp/>
- * ポータルサイト風土47運営委員会「風土47（Food Yon-Nana）」（都内にある都道府県アンテナショップのポータルサイト） <http://www.antennashop.jp/index.html>
- * レストラン「座来（ざらい）大分」（レストランを中心とした大分県のフラッグショップ）中央区銀座2-2-2 ヒューリック西銀座ビル8F 03-3563-0322 <http://www.zarai.jp/>

欲張りのひとつです。（関）
これから素敵な紙面を創って
いくために、是非、皆さんのご意見
をお聞かせください。みんなで作
る冊子になったらいいな、これも

したい、ということですよ。
活動をもっともつと外の人たちに
も知ってもらい、女性たちのきら
りと光る物語が詰まった商品を手
に取ってもらったための情報提供を
したい、ということですよ。

実はとても欲張った想いがあり
ます。ひとつは、この通信が、活
動する女性たち同士を結びつける
ツールになったらいいな、という
こと。もうひとつは、女性たちの
活動をもっともつと外の人たちに
も知ってもらい、女性たちのきら
りと光る物語が詰まった商品を手
に取ってもらったための情報提供を
したい、ということですよ。

□ 編集後記

うみ・ひと・くらしフォーラムは、様々な立場から海に関わる女性を中心に、漁村の今とこれからを考える任意のグループとして活動しています。各種漁村調査やシンポジウム開催などの活動を通し、地域活動に関わる情報提供やネットワーク形成など、現場での疑問や問題点の解決のお手伝いをしています。 blogs.yahoo.co.jp/umihitokurashi

一般財団法人東京水産振興会は、水産物流通基地である豊海水産埠頭の管理運営を行うために設立され、水産業の振興に貢献するため、水産に関する普及啓発事業および調査研究事業を行っています。 www.suisan-shinkou.or.jp/
〒104-0055 東京都中央区豊海町5番1号 豊海センタービル7階 Tel.03-3533-8111